



1983/10 NO. ¹⁷⁷~~174~~



ふりかえる100年 みつめる明日

置県百年シンボルマーク

地域に根づく「特産の里」



毎日の食卓を飾ってくれる新鮮な野菜、みずみずしい果物、美しい花など、県内には多くの地域特産物があります。これらの地域特産物のより一層の生産振興を図るため県では、「特産の里」を指定しています。この「特産の里」について紹介します。

表紙絵

富山の四季⑦

「霽れゆく神通川」

上原 卓 1982年作 紙本・彩色 113^号 × 163^号

昭和五十六年十一月末日、京を発つて富山へ向う上原氏の心の内にはもうすでに画の構想が固まりつつあった。

というのも、作者にとって当地への旅は、画題をさがし求めての取材旅行というよりはむしろ、ずっと胸中にあたたためてきた富山のイメージを青写真から一挙に完成図へと向かわせるための、いわば確認作業であったからである。

起伏のある山並みを背景に、豊かな水をたたえて流れる神通川、その辺に群生する薄^{うす}。それらにまず眼を奪われる。が、よく見ていると、この絵を形づくる要諦となる部分の存在に気づいてくる。

画面中央に位置する木立ちは、幾層にも重なる山々と手前の風景をごく自然に二分する。中州は、波打つ峰の曲線とは対照的にシャープなかたちで画面に牙^やを与え、点在する石も利いている。画面左下に目だつことなく描かれた灌木の枝ぶりは、周囲の尾花の白を際立たせる。

「現代版画ロンドン—ニューヨーク」開催中



県立近代美術館では、10月23日まで「現代版画ロンドン—ニューヨーク」を開催しています。

この展覧会は、マス・メディアを通して表われる今日のさまざまなイメージ世界の源流をなす、イギリスとアメリカのポップアート周辺の代表作家の版画作品を紹介するものです。みなさんのご来館をお待ちしています。

富山に居を構える人は誰しも、こうした情景は見慣れた日常的な風景のひとつにすぎないと思ふであろう。しかし、この絵を観る者は、晩秋の雨上りの川のほとりにひとり佇む画家に、いつしか自分自身の姿を重ね合わせる。

上原卓氏は、大正十五年東京生まれ。昭和二十三年京都市立美術専門学校日本画科を卒業。現在、創画会会員、京都在住。

(学芸員 島 敦彦)

10月号	富山の四季⑦「霽れゆく神通川」	表1・2	さあ走ろう タスキで結ぶ まちと村	16
●	地域に根づく特産の里	1~5	国立美術館所蔵内外美術名品展開催	17
も	みんなで生かそう老人の力	6~7	トピックス・県政のうごき	18~19
く	「やさしさを隣人に」	8~9	お知らせ、お茶の間にお届けします 県広報	20
じ	未来の人びとへロマンを秘めて	10~11	置県百年記念施設⑥ 食品研究所	表3
	「親子のふれあい」	12~15	あなたの協力で作る正しい統計	
	— 育児を考える母親会議から —		10月18日は「統計の日」	表4

昭和五十六年から三カ年で 七十地区指定

県では、昭和五十六年度から「特産の里」を指定しています。今年度はその最後の指定として、特殊林産物三品目四地区を含めた十地区が指定されました。

「特産の里」の成果

それによって、合わせて七十地区が特産物生産の中心な集落として指定されたことになり、

この事業の県の補助は二カ年連続事業で、昭和五十六年度に

指定された四十地区の二年間を振り返ってみると、次のような

これを類型別に区分すると、
① 伝統作物再開発型——水島柿など十四地区

② 新規作物開発型——ほうきぎなど四地区

③ 既存産地拡充型——すいかなど五十二地区
なっています。

成果が見られます。

① 生産が拡大

面積で九割、出荷量で一六割、出荷額で二九割が増加しました。

② 生産・出荷組織の育成強化

新規組織の設立十地区、生産・出荷など多部門で組織としての活動が活発化しました。

③ 集落機能の強化

集落として話し合いのなかから集団転作としての取り組みや作付協定の策定、婦人部活動と

しての取り組みなどが活発となりました。

このような各地での新しい動きを踏まえ、今後これらの「特産の里」を核として地域特産物の生産振興を進めるため、県では、今年度から新しくスタートした「特産王国づくり推進事業」や「特産野菜生産拡大事業」などで、販路拡大や生産基盤の充へと発展・誘導を図っていきます。



「特産の里」に指定された地区には大きな看板が建てられています



干だいこも小杉町の特産



1つ1つもぎとられる赤く色づいた甘いいちご



かのごゆりの収穫



福岡町ではすげがさの材料のすげを生産



中沖知事もさといもの里を視察



新規作物としてほうきぎを生産（井波町）

特産の里指定一覧（市町村別）

	昭和 56 年度 指定				昭和 57 年度 指定				昭和 58 年度 指定				合計	備考
	伝統作物 再開発型	新規作物 開発型	既存産地拡充型	計	伝統作物 再開発型	新規作物 開発型	既存産地拡充型	計	伝統作物 再開発型	新規作物 開発型	既存産地拡充型	計		
富山市			なしねぎ 施設トマト	3			ほうれんそう すいか	2			だいこん	1	6	
高岡市			なす はくさい	2			チューリップ たけのこ	2					—	4
新湊市	水島柿			1			※キャベツ ねぎ	1					—	2
魚津市			リンゴ かのこゆり 栗 たばこ	3			ぶどう れんこん	2					—	5
氷見市	いぐさ		たけのこ	2			いちご	1	竹細工		しいたけ	2	5	
滑川市			さといも	1			チューリップ	1					—	2
黒部市			いちご	1			かのこゆり ねぎ	2			さく	1	4	
砺波市	かいこ		チューリップ	2			さといも	1					—	3
小矢部市	ふき			1									—	1
大沢野町				—	いちじく			1					—	1
大山町			みょうが	1									—	1
舟橋村				—									—	—
上市町			さといも	1									—	1
立山町			ねぎ	1			ねぎ	1					—	2
宇奈月町				—									—	—
入善町	黒部すいか		いちご チューリップ	3	さくらん			1					—	4
朝日町			みょうが	1	アヌラガス			1			チューリップ	1	3	
八尾町			すいか	1							※きゅうり えのき茸	1	2	
婦中町			すいか	1			早生大かぶ	1					—	2
山田村	高取 ぼれいしょう			1									—	1
細入村				—	らっきょう			1					—	1
小杉町			たけのこ	1	干だいこん			1					—	2
大門町			施設ぶどう	1									—	1
下村				—									—	—
大島町				—									—	—
城端町			三社柿	1							しいたけ	1	2	
平村	かいこ			1							みょうが	1	2	
上平村				—									—	—
利賀村			あまちゃ	1							※わさび 山菜	1	2	
庄川町	ゆず			1									—	1
井波町		ほうきぎ	さといも	2									—	2
井口村				—									—	—
福野町			施設さく さといも	2									—	2
福光町	さんなん	きくかほ ちや	三社柿	3			だいこん	1			とうき	1	5	
福岡町	すげ			1									—	1
計	9	3	28	40	4	1	15	20	1	0	9	10	70	

(※は2品目で1産地)



「この黒部すいかも特産の里に指定されているのよ」



1つ1つ臍を手にとって見る「特産(かいこ)の里」のみなさん



冬の鍋物に欠かすことのできないねぎを収穫

みんなで生かそう老人の力



高齢者雇用促進強調月間

本格的な高齢化社会を迎え、生きがいや健康保持などのために働く機会を求める高齢者が増加しています。一方、生活の安定を求めて就労を希望する高齢者が依然多い状況となっています。

しかしながら、景気の低迷も影響して、求人が少なく、高齢者の就職が一層困難な状況にあります。

このため、9月15日からの1か月間を高齢者雇用促進強調月間として、高齢者の雇用や就労の拡大を図るため、企業や地域社会の理解を深めていこうとするものです。

高齢者無料職業紹介所

このような厳しい状況のなかで、高齢者が就労を通して生活の安定を図り、健康で明るい生活を送れることを目的として高齢者無料職業紹介所が設置されています。

特に、強調月間中には、求人開拓として事業所訪問、求人（事業主）懇談会、文書などによる求人開拓などを予定しています。

事業主のみなさんへ

臨時の仕事などで、高齢者向きの仕事を受け付けています。短時間（パート）、短期間（臨時）のものも歓迎しますので、者に適した就労場所、就労時間、ご検討のうえ、高齢者無料職業紹介所までご連絡ください。

求職者のみなさんへ

おおむね六十五歳以上のみなさんを対象として、職業紹介および各種の相談を行っています。定期巡回相談を行っています。

高齢者無料職業紹介所

富山市舟橋南町5の14

社会福祉会館内

☎0764-32-2958

定期巡回相談

- 高岡市社会福祉センター
高岡市社会福祉協議会内 毎週火・水・金曜日
- 砺波市働く婦人の家
砺波市高齢者職業相談室内 毎週木曜日
- 魚津市福祉センター百楽荘
魚津市社会福祉協議会内 毎週水曜日



高齢者無料職業紹介所の紹介によって、富山市中央卸売市場の青果問屋で元気に働く松森作次郎さん。問屋のご主人も「ひじょうに助かってます」と喜びの声



高齢者のみなさん、気軽に相談を

に人隣をさしさをやさ



共同募金運動に理解と協力を!!

共同募金は、毎年十月一日にボランティアの人たちの活気ある声が始まり、十二月三十一日までの三カ月間、街は赤い羽根のまごころでいっぱいになります。
この運動は、昭和二十二年に国民たすけあいの精神に基づいて、民間社会福祉事業の窮乏を救うことを目的として始まりました。

以来三十数年、その精神は生き続け、「赤い羽根」共同募金として、広く国民に浸透し、親しまれています。

募金の配分

共同募金に寄せられた寄付金 児童クラブ、母親クラブ、老人クラブなど地域住民のみならずの自発的な活動にも配分され、活力ある社会づくりに大きく役立っています。

この配分を受けるのは、体の不自由な人々や生活に困っている人々だけと一般に考えられがちですが、そうではありません。どこにも募金は使われています。

昨年の共同募金運動

募金方法には、街角で行う街頭募金、各家庭を対象とした戸別募金、企業を対象とした法人募金、そして企業の中で奉仕団を組織して行う職場募金などがあります。

このうちで募金の額からみると、戸別募金が約七割、法人募金が二割弱となっています。

ところで、昨年の県内の募金結果をみると、募金目標額六千五百万円に対して八千二十四万

三千四十六円集まり、保育所など四十六施設、児童クラブなど二百八十八団体に配分されました。

しかし、残念なことに全国的には、募金額は依然として低く、これを一世帯当りの平均募金額と比較してみると、全国平均三百三十九円に対し、富山県は二百七十三円で全国四十位となっています。

昭和57年度共同募金業種別配分額表 (単位:千円)

事業種別	施設・団体名	件数	配分額	配分率(%)
福祉施設	児童福祉施設	36	4,478	7.8
	養護施設	1	1,000	1.7
	精薄者施設	3	2,880	5.0
	救護施設	-	-	-
	更生保護施設	1	200	0.3
	身体障害者施設	2	591	1.0
福祉団体	老人福祉施設	3	1,520	2.7
	計	46	10,669	18.5
	児童福祉関係団体	84	4,875	8.5
	老人福祉関係団体	17	1,390	2.4
	母子福祉関係団体	16	1,513	2.6
	精薄者福祉関係団体	11	907	1.6
	生活援護関係団体	20	1,560	2.7
	保健医療関係団体	6	405	0.7
	身体障害者福祉関係団体	44	4,016	7.0
	更生保護(含青少年補導)関係団体	31	1,260	2.2
社会福祉協議会	社会福祉協議会	42	30,054	52.2
	ボランティア団体等その他	17	930	1.6
	計	288	46,910	81.5
合計	334	57,579	100.0	

(募金総額80,243千円のうち22,664千円は運営費と繰越金です)

今年の共同募金運動

共同募金運動の主体である県共同募金会では、今年度、老人と障害者のための生きがい対策のための「配分」を重点に、目標額を千五百万円引き上げ八千万円とし、職場募金に力点を置き、モデル企業を設定して、運動を推進していく予定です。

今年度は、富山県の置県百年という記念すべき年であり、人情味あふれる県民性を生かし、一人一人が隣人愛に満ちた社会連帯の輪を広げる共同募金運動にご協力をお願いします。

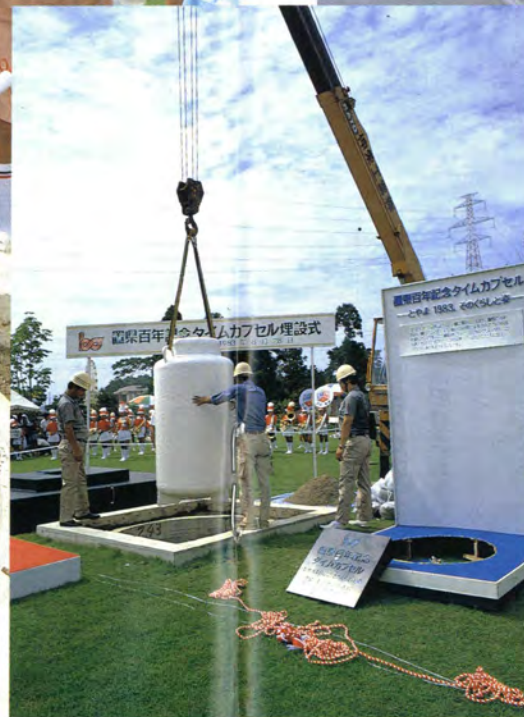
未来の人びとへ ロマンを秘めて



郷土の発展と未来の人たちの幸福を願って埋設溝に納められたタイムカプセルに砂をかける子供たち



未来への人びとへのメッセージとしてタイムカプセルに収納された品々



置県百年記念タイムカプセル埋設

「二〇八三年の百年後の人たちに、いまの暮しぶりやいまの自然・社会状況などを伝えよう」と県民公園大閤山ランドの水辺の広場で八月二十八日タイムカプセル埋設式が行われました。

内径九十センチ、高さ百七十センチ、重量約四百キロのステンレス鋼製のタイムカプセルには、現在の私たちが日常生活している日用品や台所用品、電話帳、新聞紙、ランドサットによる県内全域の航空写真、植生図、出版物、メッセージ、特産品など一般公募による収納品など百三品目、約二百点が収納され、深さ約二・五メートルのコンクリート製埋設溝に納められました。

このカプセルが開けられるのは、富山県が第三世紀を迎える二〇八三年。その間、カプセルは郷土の発展と未来の人たちの幸福を願って静かに眠り続けます。

たのが重なったものですから、子供がお漏らしすることがすごく気になり、しかってばかりいました。

また、一歳半というところその片言を話したりするのですが、長男は、パパとママしか言わなかったのですから、ますます私はいらだち、百害あって一利無しとわかっていても、早く話せるようにと同じことを何度も繰り返して言わせていましたが、二歳半を過ぎて言葉ののびはあまりありませんでした。

そこで、子供同士の方が話せるんじゃないかということ、



「もっと心にゆとりをもって育てたならば……」と語る加藤ゆり子さん

さんさん迷ったあげく、幼稚園に入れました。そうすると、あんなに母親べったりだった長男は、一度もいやがらず幼稚園へ喜んで行きますし、かなり話せるようにもなったのです。

私がつと心にゆとりをもって育てたならば、子供も救われたんじゃないかなあと反省しています。

私が最近不安になっていることは、父親が仕事の関係でほとんど子供と顔を合わせる機会がなく、母子家庭に下宿人が一人いるという状態になっているということです。

男の子が、だんだん育っていく時期に、男の大人をほとんど見ないで大きくなるとどんなふうになるのか心配でたまりません。

加藤 現在、私には一歳の女の子と三歳の男の子がいますが、私が育児の難しさに初めて直面したのは、長男が一歳半のころからでした。

その時期は、ちょうど長男がそのおしめを取ったのと、私が二人目の子供を妊娠し体調が悪かったです。

やはり、仕事と子育てを両立するには、頭の切り替えー仕事が終わればすぐ家庭や子供のことにすばやく切り替えることが必要じゃないでしょうか。

また、核家族では、仕事と子育ての両立は主人の協力がなければ成り立たないような気がしています。



「仕事と子育てを両立するには、頭の切り替えをすばやくすることが必要……」と語る宮越みち子さん

仕事と育児を両立するには、頭の切替が必要

「親子のふれあい」



— 育児を考える母親会議から —

去る八月二十四日、富山市の富山県農協協会で、「育児を考える母親会議」が開かれました。

この会議は、各市町村で活動なさっている母子保健推進員や各世代の住民のみなさんが集まって、育児に関する諸問題について卒直に話し合うことにより、母子保健及び児童の健全育成を推進しようといわれたものです。

この会議のなかの公開討論「親子のふれあい」では、六人の発言者の意見をもとに活発な討論が行われました。

ここで、この六人の発言者の意見を紹介しますので、みなさんも親子のふれあいについて考えてみてください。

発言者	
加藤 ゆり子さん	(家庭婦人)
宮越 みち子さん	(勤労婦人)
伊勢 隆さん	(父親)
小川 春子さん	(婦人民生委員)
山本 桂子さん	(母子保健推進員)
高藤 富美子さん	(保健婦)

育児にはゆとりが必要

加藤 現在、私には一歳の女の子と三歳の男の子がいますが、私が育児の難しさに初めて直面したのは、長男が一歳半のころからでした。

その時期は、ちょうど長男がそのおしめを取ったのと、私が二人目の子供を妊娠し体調が悪かったです。

やはり、仕事と子育てを両立するには、頭の切り替えー仕事が終わればすぐ家庭や子供のことにすばやく切り替えることが必要じゃないでしょうか。

また、核家族では、仕事と子育ての両立は主人の協力がなければ成り立たないような気がしています。

父親も小学校までは 子供との接触を多く

伊勢 私の場合は父親の立場とやることも必要だと思っただけです。また、子供とのふれあいという事で意見を述べよという事です。仕事の間もあつて、私自身はほとんど手をかけていませんが、四人の子供はなにかか育っています。

私を含めてほとんどの父親は子育てを母親任せにしているのではないのでしょうか。

しかし、よく考えてみると、子供の発達段階に応じてある程度父親の出番というものもあると思いますし、場合によっては母親以上にいろんな助言をして

やることも必要だと思っただけです。また、子供とのふれあいという事を考えてみると、幼児期から一諸に遊んでやったりして、接触時間をできるだけ多く持つてやる努力が必要だと思っただけです。特に、小学校の高学年まではこの機会をもつて、家の外へ連れて行き、いろんなものを見たり、一諸に考えたりする必要があると思います。



「日頃から子供の生活の実体面をよく知っておく必要が……」と語る伊勢隆さん

それから、父親と子供との対話についてですが、日頃から子供の生活行動、考え方といったものををつかんでいないと、何を話せばいいのかわからなくて、対話の切っ掛けがつかめないうことになりす。

やはり、ふだんから子供の生活の実体面をよく知っておく必要があると思います。

また、話し合いをする時間がないということもお聞きしますが、いろいろと親の側から

肌と肌とのふれ合いが大切

小川 スキンシップというのは

何であるかを、私が子育てをしてきた時代と今と比べて考えてみると、私たちの時代は、どこへ行くにも、何をすることも子供をおんぶして常に子供の温かみと自分の温かみが背中の中なかでとけあつた時間が多く、こうした敏感な肌と肌とのふれあいのなかで子供を見詰めてきたわけ

です。私としては、母と子だけの関係でなく地域の人の交わりのなかで、母親自身も気分転換になり、ゆったりとした気分になつて、しみじみ子育ての楽しさを味わうことができるのですから、地域の人も若お母さんと



「子供は、常に母親がそばにいてくれる感覚を求めている……」と語る小川春子さん

工夫をこらして、時間をつくるようにすることが必要じゃないでしょうか。

肌と肌とのふれ合いが大切

しかし、今の子供達はベットのなかで寝かされたままミルクを与えられ、またそのまま寝かされたままになっていきます。ですから、ほ乳ビンや慣れたタオルを持たなければ寝れないといった子供の事例を聞くと、子供は何かにすがりたい、常に母親がそばにいてくれる感覚を求めているんだなあという気がします。

また、私たち婦人生委員が

昭和五十五年に赤ちゃんをもつお母さんを対象に行った母乳育児についてのアンケート調査の結果をみますと、母乳育児はいくことであり、自分も赤ちゃんが生まれたら母乳育児をしようという意識を持っていらつしやるお母さんが七七位もあつたのですが、実際に母乳育児をされたのは二九位と非常に低い数字でした。

なぜ、こういう結果がでたのか検討したところ、核家族化が増え、共働きが多くなったにもかかわらず、職場での母乳育児の時間がないなどの問題がありました。

このように母乳育児というこ

家族ぐるみ、地域ぐるみの 育児が必要

ともいろいろの問題をかかえていますので、今後みなさんと共に

に考えていきたいと思っ

山本 私は母子保健推進員として昭和五十五年から仕事をして

感じたことをお話ししたいと思っ

まず、おばあちゃんが一諸の

家庭を訪れたときでした。

お母さん一人が子供をかかえて、一人で泣いたり、吐いたりするため母親はいつそうオロオロして医者へタクシーで行くということなんです

次は育児と地域の人たちとの関係ですが、私は各家庭を訪問



「家族ぐるみ、地域ぐるみの育児が必要……」と母子保健推進員として各家庭を訪問して感じたことを語る山本桂子さん

したときに、近所との交流があるかと聞くわけなんです。すると子供を連れて散歩などしていると、いい身分だねと言われてなんとなく外に出るのがはばかれるという声を聞きました。

私としては、母と子だけの関係でなく地域の人の交わりのなかで、母親自身も気分転換になり、ゆったりとした気分になつて、しみじみ子育ての楽しさを

味わうことができるのですから、地域の人も若お母さんと

育児を知らない母親が多い

高藤 私は保健婦の立場で、お

母さんやお子さんと接して感じ

たことは、ちょっと極端な言い

方かもしれませんが、育児をし

らないお母さん方が多くなつて

いるということなんです。

例えば、赤ちゃんが泣いたら、

どうしたらいいかわからなくて、

ただ、オロオロしてなかに夜

の明けの怖いというお母さん

がいらつしやるのです。



「育児を知らない母親が多くて、不安だ」と語る高藤富美子さん

子供が散歩していたら、ちょっと声を掛けるなどして温かく見守

ってほしいなあと感じました。

を掛けたいんですけどかという

質問があるんです。言葉掛けと

いうことが特別なことのように

思われているんです。オッパイ

をあげながら言葉を掛けるとい

うのが自然なわけなのにそれが

わからないのです。

さらに、お子さんの抱き方は

という、ひざの上にちょこん

と乗せて子供を向こう側に向か

せているんです。抱っこという

のは、自分の方に向けて抱き寄

せて目と目を見合わせるのが抱

っこじゃないでしょうか。

離乳食の準備として、本に書

いてあるようインスタントのベ

ビーフードとかヨーグルトをや

っているという方が多いんです。

それで、お母さんの手をかけ

た果汁をしぼってあげることが

とてもいいんですよとお教えす

ると、喜んで帰っていかれます。

このようにいろんな事例を見

てくると、今のお母さんはなま

くらで育児に手をかけないとい

るのではなく、全く知らないとい

うことなんです。

こんなことで本当の子育てが

できるのだろうか不安になつ

てきます。

さあ走ろう タスキで結ぶ まちと村

県内一周駅伝競走大会

10月29日(土)～10月30日(日)



置県百年を記念した県内一周駅伝競走大会は、十月二十九、三十の両日、晩秋の越中路にさわやかな駅伝ドラマを繰り広げます。

「さあ走ろうタスキで結ぶまちと村」のキャッチフレーズに象徴されるように、県民ひとりひとりが手を取り合って、ふるさとを駆けめぐり、心を合わせて声援を送る連帯感と活力は、まさに置県百年の記念事業を締めくくるのにふさわしいビッグイベントです。

コースは、一部山間地を除く二十八市町村を網羅した二百七十五・四き、七十八区間。競技は十六郡市対抗で中学生、高校生や一般、ママさん選手など幅広い選手構成も、駅伝史上初めての試みで、全国の自治体からも注目されています。

駅伝は、一般道路を走る独特の競技であり、走る選手と沿道の住民のみならずとが一体となった競技です。この大会の県下全市町村競技役員は一人を超え、郷土の新しい世紀への号砲に向かって熱意も盛り上がりつつあります。

さあ、わたしたちもふるさとの飛躍の願いを込めて、この駅伝に力いっぱい声援を送りましょう。

国立美術館所蔵内外美術名品展開催

富山県民会館・10月16日まで



セザンヌ、ポール「ジャ・ド・ブリアンの眺め」



ロダン、オーギュスト「ネレイデス」



ミレイ、ジョン・エヴァリット「あひるの子」



モネ、クロード「波立つブルヴィル海」

「国立美術館所蔵・内外美術名品展」(文化庁・県教育委員会、富山県民会館の共同企画)を十月一日から十六日まで富山県民会館美術館で開催いたします。

この展覧会は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館の所蔵する美術作品のなかから、特に厳選された絵画・彫刻六十点を展示いたします。

出品作家には、モネ、セザンヌ、ルノワール、マティス、ピカソ、シャガール、ロダン、マネ、イヨール、岸田劉生、藤島武二、梅原龍三郎、安井曾太郎、坂本繁二郎、岡田謙三など六十名。いずれも世界の美術、日本の美術史を創造してきた面々たる作家たちが、作品を通じ、私たちに芸術のすばらしさを語りかけてくれます。

なお、開館時間は午前九時から午後六時三十分で、会期中は無休です。

入場料

一般五百円(四百円)高・大生三百円(二百円)小・中生二百円(百円) (一)内は二十名以上の団体料金
団体鑑賞のお申し込みは、富山県民会館事業課文化係
(☎0764-321311)までご連絡ください。

8月16日～9月15日



置県百年記念消防祭では、約1100人の消防関係者が県庁前を分列行進



全国から集まった選手たちによって熱戦が繰り広げられた全国ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会



▲大山町のまちなまりで、やくし荘を見学中沖知事

8月20日～8月22日

置県百年を祝い消防祭

置県百年記念消防祭が富山市内で開かれ、8月21日には県内各地から集まった消防関係者約1100人が県庁前で分列行進を行い、中沖知事の検閲を受けた後、県民会館で記念式典を行い、防災への決意を新たにしました。

また、8月20日から3日間にわたり、消防防災展が開かれ、消防の歴史、現代の消防、生活と消防とのかわりなどを紹介しました。

8月24日～8月27日

全国ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会開催

置県百年記念第6回全国ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会は、8月24日から4日間にわたり、富山

市の市民プール（競泳・シンクロ・飛び込み）と高岡市の県営水泳場（水球）で行われました。

大会には、全国461クラブから約2700人の選手とオーストラリアの招待選手10人が参加、熱戦を展開しました。

8月25日

タイムカプセル埋設

置県百年を記念して県民公園太閤山ランドの水辺の広場にタイムカプセルが埋設されました。(10～11参照)

8月25日、9月14日

福光町と大山町で知事と語るつどい及びまちなまり

8月25日福光町、9月14日大山町で知事と語るつどい及びまちなまりが行われました。

中沖知事は、両町の各施設を熱心

に見て回るとともに、語るつどいでは町民のみなさんからの意見や要望などに答え、町民のみなさんとのふれあいを深めました。

9月5日

テクノポリスシンポジウム開催

富山県の新技術時代を探る富山テクノポリスシンポジウムが富山第一ホテルで、県内の産・学・官各界から350人が参加して行われました。

シンポジウムでは、加藤昭六通産省審議官と笹生仁日本大学教授の講演のあと、テクノポリス建設に必要とされる先端技術産業の育成、科学教育を中心とする人づくり、新しい生活空間の在り方について、有識者によるパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換が繰り広げられました。

最後に、石坂誠一前工業技術院長が討議を締めくくるかたちで講演しました。

9月6日～9月8日

老人若返り祭り開催

置県百年記念老人若返り祭りが9月6日富山市の県民会館大ホールで開かれ、演芸やのど自慢など多彩なプログラムが繰り広げられ、約1200人のお年寄りのみなさんが歌や踊りにハッスルしました。

また、1階展示場では、9月8日まで絵画や書、陶芸、手工芸品などの力作が展示されるとともに、陶芸や手工芸品などの即売も行われました。

9月7日

富山産業展示館オープン

富山市友杉に建設されていた富山産業展示館（愛称テクノホール）が完成、関係者500人が出席し完成式が行われました。

この展示館は、見本市や展示会の施設としては日本海側随一の規模を誇り、これからの多様化時代に対応する数々の設備を備え、多目的に利用できる創造のスペースです。

また、オープニングセレモニーとして、全国より最新の工作機械などを展示した北陸機械工業展が開かれました。

9月8日

食品研究所完成

富山市吉岡で建設を進めてきた食品研究所が完成、県や食品産業界の関係者130人が出席し、完成式が行われました。(表3参照)



活発な意見交換が行われたテクノポリスシンポジウム



テクノホールのオープニングセレモニーとして開催された北陸機械工業展



自慢の踊りにハッスルするお年寄りのみなさん

お知らせ

●「とやま国際貿易展」の開催案内

日本の輸入、輸出商品の数々を一堂に集めて紹介する北陸初の総合貿易展「とやま国際貿易展」が、11月2日(水)～6日(日)の5日間にわたって富山産業展示館で開催されます。

富山県の置県百年と富山産業展示館の完成を記念する富山県のメイン行事の一つで「世界を暮らしの中に、が、キャッチフレーズ。

テーマコーナーでは富山県の貿易の現況がパネル等でわかりやすく解説され、先進国のグッドデザインの「世界の生活用具展」をはじめ、外車展示、海外の交流の現況などが紹介されます。

展示部門では県内外の優秀企業の輸出機械商品の展示、パズル部門では世界各国の食品、装飾品、家具はじめ生活雑貨等が数多く即売されます。

また、会場内には貿易、海外旅行等の相談コーナーも開設されます。

なお、詳細については、とやま国際貿易展事務局

(☎0764-21-7535)へ、お問い合わせ下さい。

●「婦人と青少年の国際交流のつどい」開催

県では、置県百年記念事業として、来る10月21日(金)から25日(火)までの5日間、県内外在住の外国人を招待して、婦人と青少年の国際交流のつどいを開催します。これは、言語、宗教、習慣等異なる国々の婦人及び青少年がつどい、各国事情の紹介や意見交換等の活動を通じて、相互の友好親善と理解を深めるとともに、本県の婦人及び青少年の国際理解の高揚と国際感覚の醸成に資することを目的に行うもので、主な行事日程は次のとおりです。

(1)意見交換会は10月22日(土)午後1時から富山県民会館会議室で、(2)国際交流展は10月22日(土)から25日(火)まで富山県民会館地下展示場で、(3)ホームステイは10月21日(金)から23日(日)まで富山市周辺の家庭で、(4)外国人による日本語弁論大会は10月23日(日)午後1時から富山県民会館大ホールでそれぞれ行います。なお、詳細については県庁婦人青少年課、☎(0764)31-4111番 内線761番までお問い合わせ下さい。

●理容師試験及び美容師試験のお知らせ

富山県では、昭和58年度第2回理容師試験及び美容師試験の学科試験を11月7日(月曜日)に、又実地試験を11月28日(月曜日)に実施します。

受験を希望される方は、受験願書を10月7日(金曜日)から10月21日(金曜日)までに、県内の受験者にとっては住所地を管轄する保健所へ、また、県外の受験者にとっては富山県厚生部環境衛生課へ提出して下さい。

なお、詳細については、最寄りの保健所、または富山県厚生部環境衛生課(☎0764-31-4111 内線452)へお問い合わせ下さい。

10月の街頭献血日程

月日曜	場 所	時 間	月日曜	場 所	時 間
10/8(土)	富山駅前	10:00～16:00	10/15(土)	魚津サンプラザ前	10:00～15:30
9(日)	高岡駅前	10:00～15:30	16(日)	高岡伏木古府小学校前	10:00～15:30
9(日)	富山西武前	10:00～16:00	18(日)	小矢部市役所前	10:00～15:30
10(月)	富山駅前	10:00～16:00	29(土)	富山駅前	10:00～16:00
14(金)	新湊市役所前	10:00～15:30	29(土)	高岡駅前	10:00～15:30
15(土)	富山駅前	10:00～16:00	30(日)	高岡駅前	10:00～15:30

県政についてのご相談は県民相談室へ

県民相談室	富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎富山31-4111(代) 31-3131(県民電話)
高岡地方県民相談室	高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎高岡21-9411
魚津地方県民相談室	魚津新宿10-7(総合庁舎内) ☎魚津24-5311
砺波地方県民相談室	砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎砺波33-5151

お茶の間にお届けします県広報

広報課では、この「県広報とやま」のほか、テレビ、新聞などの媒体を活用して、県の施策の紹介や暮らしに欠かせない情報を提供しています。

テレビ広報

KNB「こんにちは富山県です」

県政の諸施策、問題点を、みなさんに知っていただくための番組です。また、今年度は、置県100年特別企画をシリーズで行います。

毎週日曜日、午前8時～8時30分

10月のKNB「こんにちは富山県です」

2日	県食品研究所オープン
9日	ご存知ですか？ 富山のスポーツ
16日	置県百年特別企画「日本の中の富山県人」
23日	ボランティア活動強調月間
30日	少年の主張富山県大会

富山テレビ「110万人のひろば —クイズ！フォーカスイン—」

県内のいろいろな話題、さまざまな施設、みなさんの関心事などを、クイズ形式で楽しく紹介する、ふるさと再発見番組です。

毎週日曜日、午前9時～9時30分

新聞広報

県の主な施策や事業を紹介し、当面する課題をみなさんと一緒に考えると同時に、生活情報を提供します。

○北日本、富山、読売、北陸中日

毎月第2土曜日「県からのお知らせ」

毎月最終土曜日「みんなの県政」

○朝日、毎日

毎月第2・最終土曜日「県からのお知らせ」

置県百年記念施設 ⑥

富山県 食品研究所

富山市吉岡360
☎(0764)29-5400

九月八日に完成した食品研究所は、食品の加工、流通技術の研究、開発し、農林水産物の付加価値を高め、地場食品産業の技術水準の向上を目指すものです。業務には大きく分けて、食品加工技術の改良・開発、新製品の開発、化学成分分析などの分析検定、技術指導や情報提供などがあります。

開発研究の対象となる食品は多種多様ですが、特に、特産品を原料とするユニークな新製品の開発をめざしています。

この食品研究所の完成によって、県内の地場食品産業の振興が図られるものと期待されています。



▲農業試験場のとなりに完成した食品研究所



▶食品加工の研究、開発に欠かすことのできない設備も充実

今月の置県百年記念行事

- 10/10 置県百年記念芸術祭
富山県詩吟剣舞大会
場所 富山県教育文化会館
- 10/10～10/28 富山県南米親善訪問団
場所 ブラジルほか
- 10/21～10/25 婦人と青少年の
国際交流のつどい
場所 富山市内
- 10/22～10/30 置県百年記念芸術祭
子どもフェスティバル
場所 富山県教育文化会館ほか
- 10/23 富山県児童クラブ祭り
場所 富山城址公園
- 10/29～10/30 富山県農林漁業祭
場所 富山県民会館ほか
- 10/29～10/30 県内一周駅伝競走大会
場所 県内28市町村
- 10/30～11/6 富山県菊まつり
場所 福野町
- 10月～11月 グリーンプランさくらの園造成
場所 実施市町村



青果 →

広告商品
4個 590円 新水
3個 590円 新水



あなたの協力で作る正しい統計

10月18日は統計の日

いろいろな所で、当然のように使われている統計ですが、それが多くの経費と時間をかけて作成されていることや、統計が無かった場合の不便さはあまり意識されていないようです。

言うまでもなく統計は、社会経済の動きや国民生活の様子を数量的に把握する指標であって、行政のいろいろな施策の立案や企業の経営計画、家庭の生

活設計を立てる際にも必要不可欠なものとなっています。

このような統計の多くは、統計調査員が企業や家庭を訪問して調査した結果をもとに作成されますので、情報を提供していただく皆さんの協力が得られなければ、正しく信頼できる統計の作成は困難です。つまり、みなさんの協力こそが正しい統計の命なのです。